

福祉科 学習指導案			
単元名		社会福祉基礎 生活支援のための公的扶助	
単元の目標 (単元で育成する資質・能力)		① 生活保護制度の基本原理や原則、保護の種類、動向などを取り上げ、制度が生まれてきた社会的背景、理念、現状について理解すること。 ② 事例検討を行うなかで、必要な扶助や支援を選択できる思考力と判断力、問題に対して課題を見出し解決する課題解決能力を養うとともに、制度を利用する人の生活背景を読み取り、自立に向けた支援ができる福祉従事者としての視点をもつこと。	
具体的な評価規準			
知識・技術		思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
生活保護制度の基本原理や原則、保護の種類、動向などを学び、制度が生まれてきた社会的背景、理念、現状について理解している。		事例を正しく読み解くために、要保護者の生活背景を理解し、必要な保護の種類を判断することができる。	生活保護に関連する事例を読み、原理原則と要保護者の抱える課題を照らし合わせながら、必要な保護の種類と支援方法を考察できる。
単元計画			
次	時	評価規準と評価方法	学習活動
一	1 2	【評価規準】生活保護制度の基本原理や保護の原則、制度誕生の社会的背景、理念、現状について理解している。(知識・技術) 【評価方法】記述の確認	① 生活保護制度の基本原理や保護の原則を学び、制度誕生の社会的背景、理念、現状について理解した後、一問一答形式の問題を解き、その後自分で問題を作成する。
二	3 4	【評価規準】生活保護制度の種類と動向について理解し、事例に対して適切な扶助を判断することができる。 (思考力・判断力・表現力) 【評価方法】記述の確認 (主体的に学習に取り組む態度) 【評価方法】行動の観察	② 「ライフサイクルゲーム」等の教材を活用し、人の一生の各ライフステージにおいて必要な生活資源を理解する。 ③ 生活保護制度の8種類の扶助について、内容を理解する。さらに、事例問題を読み、要保護者に必要とされる扶助の種類を検討し、理由を添えて発表する。
三	5 6	【評価規準】生活保護に関連する事例を読み、原理原則を確認しながら、必要な保護の種類を判断し、要保護者の抱える問題や課題を見出し解決するための方法を考えることができる。 (主体的に学習に取り組む態度) 【評価方法】記述の分析	④生活保護の実施体制について理解する。 ⑤事例を読み、扶助の種類を判断した後、生活の自立を見据えて現在の問題点と今後どのような支援が必要になるかをグループで検討し、発表する。
四	7 8	【評価規準】生活保護制度と密接な関わりのある生活福祉資金貸付制度が必要な人や、生活のどの場面で必要になるかを考えることができる。 (思考力・判断力・表現力) 【評価方法】記述の確認	⑥生活福祉資金貸付制度の内容を理解し、その種類が、生活のどの場面で必要になるかをまとめる。 ⑦ホームレスの現状を学び、ホームレスの長期化が及ぼす影響と課題について理解し、自立に向けた支援内容を考えることができる。



本時の目標

生活保護に関する事例を読み、必要な保護の種類を判断しよう。
また、要保護者の抱える問題や課題は何かを考え、自立に向けた支援方法を考えよう！

事例①

金銭管理能力が低い高齢の父と知的障がいのある娘への支援

<対象者>

本人：70代 男性 金銭管理が苦手 げんごふめいりょう 言語不明瞭 認知症の疑い
娘：30代 女性 知的障がい（療育手帳あり）

<世帯の特徴>

高齢、知的障がい、生活保護受給中、不衛生な生活環境、金銭管理が困難、持ち家で2人暮らし

<これまでの生活状況>

本人と娘の二人暮らし。娘には、知的障がいがある。2ヶ月前に妻が感染症で亡くなった後、二人暮らしとなった。もともと物の多い家であったが、妻が10年前にペースメーカーを入れた頃から、まったく掃除をせず、捨てることもなくなったため、今では玄関までふさがりほどになってしまった。本人も娘も金銭管理ができず、今月はもうお金が残っていない。（生活保護費は食費ですべて使い切っている。食糧も残っていない。）現在、物の多い状態の中、夜は懐中電灯の明かりで暮らしている。父、娘ともに病院受診を定期的に行っていたが、気持ちに余裕がなくなり最近では病院に行っていない。

<世帯の経済状況>

収入：生活保護（受給中）+父の年金収入

*娘の障害年金を申請・受給すると収入が増え、生活保護世帯からはずれてしまうため、見守りができなくなってしまう。そのため、生活保護課と話し、障害年金の申請を見送っている現状がある。

<社会関係について>

- 現在生活保護を受給中だが、金銭管理がうまくできない様子があり、妻が亡くなってから、毎日「お金がない」と生活保護ワーカーへ連絡をするようになった。
- 娘には知的障がいがあり、コミュニケーションはできるが、支援拒否の傾向がみられる。
- あまり外出せず、外とつながりをもっている様子はない。

個人ワーク 10分

対象者の生活上の問題	
------------	--

現在 必要な保護の種類 (〇〇扶助)	
--------------------------	--

最も優先される対象者の生活課題は 『 理由：()	』)
自立に向けた支援方法	

*生活課題は、その人のニーズを指すため書き方は〇〇できる。〇〇できるようになる。と書く
例：生活上の問題：食事を全量摂取できていない 生活課題：食事を全量摂取できるようになる

グループワーク 10分

グループメンバー：())
最も優先される対象者の生活課題は 『 理由：()	』)
自立に向けた支援方法	

個人ワーク・・・10分

<活動①>

- ・事例を読み、対象者を支援するうえで必要な情報に線を引く。

<活動②>

生活を送る上で問題になっていること

- ・対象者の**生活上の問題**をあげる（複数可）
- ・必要な保護の種類（〇〇扶助）を書く

<活動③>

- ・対象者の生活課題を1つあげ（優先順位が一番高いもの）、自立に向けた支援方法を書く

グループワーク・・・10分

<活動①>

- ・グループを作り個人ワークで行った活動①～③を互いに発表し、意見交換を行う

<活動②>

- ・対象者の生活課題を1つに絞り（優先順位が一番高いもの）、自立に向けた支援方法を検討する。

発表15～20分

- ・各班の代表者が発表し、検討内容を全員で共有する。*発表者を決めておくこと

社会福祉基礎「生活支援のための公的扶助」 ループリック評価表(6/8時間目)

<個人ワーク時の評価>

評価の観点: ① 既習事項が定着しているかを評価する。

② 既習事項を活用しながら、課題解決に向けて取り組もうとしているかを評価する。

評価の方法: 授業終了後プリントを回収し、記述内容を評価する。

	A	B	C
問題を正しく読み取る	生活上の問題を3つ挙げることができる。	生活上の問題を2つ挙げることができる。	生活上の問題を1つ挙げることができる。
内容に関する知識 (扶助の内容)	医療扶助、生活扶助両方書くことができる。	医療扶助、生活扶助のどちらか1つを書いている。	医療扶助、生活扶助以外のものを書いている。
既習事項の活用	生活課題に「金銭管理」を挙げ、自立に向けた支援方法に「日常生活自立支援事業を活用する」と書いている。	生活課題に「金銭管理」を挙げ、自立に向けた支援方法に自分なりの考えを書いている。	何かしらの生活課題とそれに関連した自立に向けた支援方法を書いている。

<グループワーク時の評価>

評価の観点: グループ討議への参加意欲を評価する。

評価の方法: ① 生徒に授業終了時に配付し自己評価を行う。

② 授業時にグループワークの様子を観察し評価を行う。

	A	B	C
傾聴力	目線を合わせながら相づちなどのリアクションをする。	目線が合う、もしくはリアクションを取っている。	相手と目線を合わせず、リアクションもしない。
参加意欲	グループで3回以上発言する。	グループで2回以上発言する。	グループで1回以上発言する。
記述	グループワークの記入欄を漏れなくすべて記入している。	グループワークの記入欄をメモ程度にまとめている。	グループワークの記入欄に空欄がある。